

2014 3 月 定 例 会 一 般 質 問 全 貌

(川 上 議 長) 続 いて 一 般 質 問 を 許 し ま す 。 5 番 前 住 孝 行 議 員 。

(前 住 議 員) は い 。 皆 さ ん 、 こ ん に ち は 。

() こ ん に ち は 。

(前 住 議 員) 天 候 の 悪 い 中 傍 聴 に お 越 し 下 さ っ た か た 、 ま た イ ン タ
ー ネット 中 継 で 傍 聴 さ れ て い る か た 、 本 当 に あ り が と う
ご ざ い ま す 。 5 番 前 住 孝 行 で す 。 2 月 9 日 の 町 議 会 議 員
選 挙 で 2 期 目 の 議 席 を い た だ き ま し た 。 過 去 4 年 間 の 経
験 を 更 に 発 展 さ せ 、 こ の 若 桜 町 が よ り 誇 れ る 町 に な る よ
う に 気 を 引 き 締 め て 議 員 活 動 に 取 り 組 ん で ま い り た い と
思 っ て お り ま す 。

さ て 、 そ の 選 挙 中 で あ る 2 月 6 日 か ら ソ チ オ リ ン ピ ッ
ク が 、 ま た 、 3 月 7 日 か ら は パ ラ リ ン ピ ッ ク が 開 催 さ れ
ま し た 。 皆 さ ん が た に は そ れ ぞ れ 印 象 に 残 ら れ た 選 手 や
場 面 が あ る の で は な い か と 思 い ま す 。 フ ィ ギ ュ ア ス ケ ー
ト の 浅 田 真 央 選 手 、 ま た ス キ ー ジ ャ ン プ の 葛 西 紀 明 選 手
な ど と さ ま ざ ま だ と 思 い ま す 。 私 は パ ラ リ ン ピ ッ ク 、 ス
キ ー ア ル ペ ン 競 技 に 出 場 し ま し た 谷 口 彰 選 手 の 活 躍 が 挙
げ ら れ ま す 。 私 と 同 級 生 40 歳 の 彼 と 高 校 時 代 は 同 じ よ う
に 氷 ノ 山 や 大 山 の ス キ ー 競 技 で 競 い 合 っ た 仲 間 で す 。 彼
が 高 校 3 年 生 の と き 、 練 習 中 に 立 木 に ぶ つ か り 下 肢 に 障
が い を 負 い ま し た 。 あ ん な に 頑 張 っ て い た ス キ ー を 諦 め
た か と 思 い き や 、 チ ェ ア ス キ ー に 転 向 し ま し て 努 力 を 重
ね 、 今 回 の 7 位 入 賞 と い う 輝 か し い 成 績 を 収 め ら れ ま し
た 。 ス ポ ー ツ の 持 つ 可 能 性 に つ い て 、 改 め て 教 え て も ら
っ た 気 が し ま す 。 い つ か 、 若 桜 町 で こ れ ま で の 生 き ざ ま
を 語 っ て も ら え た ら と 思 っ て お り ま す 。

そ れ で は 通 告 さ せ て も ら っ て い ま す 2 点 に つ い て 、 順
に 質 問 さ せ て い た だ き ま す 。 1 つ 目 の 過 疎 地 域 自 立 促 進
特 別 措 置 法 の 一 部 改 正 に つ い て で す 。

過 疎 地 域 自 立 促 進 特 別 措 置 法 の 一 部 改 正 に つ
い て

昨年 の 8 月 30 日 公 共 交 通 調 査 特 別 委 員 会 で 過 疎 対 策 事 業 債 の 対 象 拡 大 を 求 め 、 過 疎 対 策 特 別 委 員 会 委 員 長 森 山 裕 氏 、 鳥 取 県 選 出 議 員 他 3 名 の 国 会 議 員 へ の 要 望 に 伺 い ま し た 。 そ の 要 望 が 総 務 部 会 過 疎 対 策 特 別 委 員 会 合 同 会 議 で 協 議 さ れ 、 過 疎 地 域 自 立 促 進 特 別 措 置 法 の 一 部 改 正 に つ い て の 概 要 が 出 さ れ て い ま す 。 そ の 中 に 過 疎 対 策 事 業 債 の 対 象 拡 充 に 「 地 域 鉄 道 」 が 追 加 と な っ て い ま す 。 「 住 民 の 交 通 手 段 の 確 保 ま た は 地 域 間 交 流 の 促 進 の た め の 鉄 道 施 設 及 び 鉄 道 車 両 並 び に 軌 道 施 設 及 び 軌 道 車 両 の う ち 、 総 務 省 例 で 定 め る 事 業 者 の 事 業 の 用 に 供 す る も の 」 と 、 ま さ に 若 桜 鉄 道 の た め に 追 加 し て い た だ い た も の と 考 え て い ま す 。 町 長 の 所 信 表 明 で も 「 車 両 の 購 入 や 線 路 や 電 路 の 改 修 費 も 負 担 が 少 な く て 済 み ま す 」 と 言 わ れ ま し た が 、 今 後 の 動 き と し て は ど の よ う に な り ま す か 、 お 尋 ね し ま す 。

(川 上 議 長)

答 弁 を 求 め ま す 。 小 林 町 長 。

(小 林 町 長)

はい。前住議員の過疎対策事業債の対象拡大に地域鉄道が追加となっているが、今後の動きについて伺うということでございますけれども、お尋ねの過疎対策事業債に地域鉄道が追加対象となっていることについてですが、これについては全国過疎連盟を通じて地域鉄道の敷設整備事業が過疎債の対象となるように要請すると共に、県知事には若桜鉄道の経営状況を直接お話して強力なバックアップをお願いしていたところでもございます。このような中、平成 25 年 7 月に鳥取県知事及び八頭町長と私とで要請することになり、急遽上京して総務大臣、副大臣、政務官及び鳥取県選出の国会議員に対して、過疎対策事業債の対象範囲の拡大についての要望を行いました。また、翌月には若桜町議会の議長を初め、議員の皆さんと共に自由民主党の過疎対策特別委員長や自民党政務調査会長、鳥取県選出の国会議員のかたがたにも重ねて要望活動を行いましたし、更には、私も自由民主党過疎対策特別委員会にも出席して意見を述べさせていただきました。このような熱心な取り組みが実を結びまして、過疎地域自立促進特別措置法の一部を改正する法律案が国会に提出されて平成 26 年 4 月 1 日から施

行される運びとなりました。このことは若桜鉄道にとってはもちろん、八頭町、若桜町にとりましても大変有意義なことであると喜んでいるところでもございます。今回の法律改正となった具体的な対象としましては、「住民の交通手段の確保または地域間交流の促進のための鉄道施設及び鉄道車両並びに軌道施設及び軌道車両」ということですので、現在計画的に行っております線路や踏切、通信ケーブルなど鉄道施設の整備に充当できることと認識しているところでもございますが、S Lなどによる観光列車運行に伴う整備費用の財源充当は今後の課題であるとも認識しております。

従いまして、当面は、鉄道施設の整備のみならず開業当初から運行して26年が経過している3両の車両について検査等の修繕費用も増加しておりますので、八頭町と連携を図りながら計画的な車両更新について具体的な検討をしてみたいと思っております。しかしながら、過疎対策事業債の借入れについては、国の地方債計画によりまして過疎債の発行額が定められ、必ずしも要望どおりに過疎債の配分がなされるものではなく、また一度に多額の借入金を行うと後年度の償還額も膨らみ、町の財政を圧迫する恐れもありますので、従いまして、実施にあたっては町全体の財政状況を勘案して健全な財政運営を確保しながら計画的に取組みを進めてみたいと考えているところでもございます。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。先程町長の方も財源、その財源が限られているということで私もそこをちょっと気になっておりまして、その概要の方にも本案施行に要する費用ということで2億円の見込みということでありますので、本当に計画的にというか、早く計画しないといけないのかなというふうに思っているところです。それで、本当に、そうですね、まずは3両の更新ということで、本当に雨漏り等があったりしているということですので、そちらの方をまず優先されると思います。それで、先程ちょっとS Lのことが出ましたけども、確かにそこが入っていないのかもしれないかもしれませんが、本当に今後はそういったことにもつなげ

られるようになればなというふうに個人的には思っておりますまして、選挙が終わったあとの2月22日なんですけど、鳥取市の議員さんと話す機会がございまして、結構、若桜にすごい興味を持っておられるかたで、ちょっとそのSL観光列車のことについてちょっと尋ねたんですけど、どういうふうに答えられるかなと思っていたんですけど、本当にすごい前向きで、「何だあ、郡家で折り返すというような話が出ているけどいけんで。」と言われてまして、「ちゃんと鳥取市までが入らすようにしないといけん。」というように、すごい逆に怒られるぐらいの勢いでと言われてまして、改めて周りのかたのSL観光列車の思いというのは広がっているんだなというふうに感じたところです。

とはいえ、ちょっと今そういったところでSLの部分にはなかなか該当しませんけど、まずは、車両ということで進めていただけたらというふうに思います。それでは、次の質問に移りたいと思いますが、またその対象拡大の5項、5番目には「障がい者又は障がい児の福祉の増進を図るための施設」というものも追加になっています。現在の若桜ふれあい作業所もドリーミーの一角を使って頑張っておられますが空き缶集めなど、手狭で作業がしにくいと聞いています。雨風が凌げる作業場があれば事業拡大につながると思われそうですが、そのことについての所見を伺います。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。現在の若桜ふれあい作業所が手狭で作業がしにくいと聞いていますので、雨風が凌げる作業所があれば事業拡大につながると思われるが町長の所見はということとございませうけども、現在、若桜ふれあい作業所では11名程度の利用者がありまして職員やボランティアを含め15名ぐらいで作業をしておられます。作業内容は、こんにやく作りやアルミ缶の収集、各事業所からの受託作業などを行っておられまして、受託作業については今の人数であれば今の部屋の広さで十分であるとも聞いていますし、こんにやく作りについては、週1回公民館を使って作業を行っておられます。また、アルミ缶を洗い潰す作業は、ドリーミーの建物の外で行っておられます

が近くにボイラーがあるため消防法の関係で囲いを設置することができませんので、風を防ぐことができず冬期間は大変寒い、作業効率も悪いと聞いております。作業所での就労については、ただ単に収入を得るということだけではなく、就労機会を提供することによって生活資金の確立や体力の増強につながると共に、自分の役割や仲間との連携など、心理的、社会的に大きな相乗作用があるとも思っております。今のところ就労者数や職員数の関係で、作業所をいろんなところに分けて運営することは難しいとおっしゃっておられます。また、今の作業所を改修して広くすることも場所的には難しい状況でありますので、場所の確保につきましては社会福祉協議会が一番、社会福祉協議会の傘下に入っておられますので、協議会や作業所の皆さんと協議しながら検討は進めてみたいということをおっしゃっているところでございますけれども。

(川上議長)

前住孝行議員。

(前住議員)

はい。結構、障がいのあるかたがたは結構、環境の変化というのが本当にすごい敏感であられて、それで、あんまり大変えとか、本当に変わったことをするとちょっと適用できなかつたりという状況もあつたりするのでその辺、それでちょっとでも狭いところで、こうごちゃごちゃすると、本当にそれでもすぐにストレスにつながつたりというような状況があるんじゃないかなというふうに思っております。でもいろいろな状況があつてのそのボイラーがあるから囲えないとかというような現状もあるようですし、でも、何とかそういったことにも対象になっていきますのでそういったこともできたらなというふうに考えています。でも、こうやって対象拡大の5番目に上げられているということは、たぶんどこかの自治体で要望があつて入っているということだと思います。それで、そういったところがたぶん実施されると思いますので、何かそういったことが先進事例ということで若桜町にも合つたことができたらなというふうに思っております。今回はこの過疎地域自立促進特別措置法の一部改正について質問させていただきました。

それで、本当に単独の道を選んで、そこでこの有利な

過疎対策事業債というのがありますのでこれを更に有効的に使っていただいで、若桜町に何とかより活力を与えていただけたらというふうに思っております。

では、続きまして、2点目の質問に移らせていただきます。氷ノ山の通年型観光のまちとしての考えについてということで、先程の山根議員の関連質問になるなというふうに思っておりますが、別に示し合わせて考えたわけではありませんが、本当に思いが似ているなというふうに思いました。

氷ノ山の通年型観光のまちとしての考えについて

鳥取県の当初予算に氷ノ山エコリゾート整備事業ということで、氷ノ山の響の森のリニューアルを初め、登山道の整備、アウトドアスポーツ大会の事業など1億5,788万円が上げられています。そこで、氷ノ山にある地域資源を活用した通年型観光の拠点づくりが進むと思われれます。町長も所信表明演説でかなり具体的な表明をされ、3期目の更なる意気込みを感じ嬉しく思っています。所信表明を聞く前から短期・中期・長期的な計画があるとより充実したものになるのではないかと考えており、所信表明の中でも「計画的に行います」と発言されましたので、一般質問せまいかなと思ったぐらいではありますが、ちょっと今回やってみました。

計画を策定された良い例といたしまして、「若桜町木質バイオマス総合利用計画」だと思います。10年間の計画が明確に示されているため、他課との事業と組み合わせての事業がなされているように感じております。地域おこし協力隊で来られたかたがお試し住宅に住み、薪づくりの生産コストの算出調査をされていました。このように氷ノ山開発の短期・中期・長期計画なるものを策定することで同じような課を越えた充実した事業ができるのではないかなというふうに思っております。そのことについての考えを伺います。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小 林 町 長)

はい。今、まだ氷ノ山のこれから先のことを協議中の段階でございまして、明らかにもうすでに、もうすぐにせえということにはなかなか私は行かれないなという具合に思っておりますし、なかなかバイオマスと違いました国がいい支援策はなかなかない。あれば過疎債ぐらいなところでもございまして、そういう面でまだその中期、あれをそこまでまだ私はしておりません。ただ、私は今回、私の所信表明の中では1つのそういう長期の思いを言わせていただきました。これからしっかりとそういうところにはいろいろなことをしていきたいと思っておりますけれども、一番大事なことは総合計画とか過疎計画もしっかりあなたも見られたと思っておりますけれども、そういう中で肉をつけていくのが当然かなという具合に思っているところでもございます。現在、氷ノ山グリーンエコリゾート推進協議会を中心に、氷ノ山への観光客誘致を促進する取り組みについて、平成25年度より具体的な事業展開並びに検討をしております。

その施策展開においては、事業の実施主体、着手時期等明確にするエコツーリズムやスポーツツーリズム事業の開催や氷ノ山自然ふれあい観光、響の森のリニューアル、また登山道の整備などが計画されており、新しい氷ノ山の魅力を県内外の皆さまに知っていただけるようにこれまで以上に鳥取県、若桜町観光開発事業団、地元関係者等と連携して氷ノ山ならではの新しい魅力を発信していきたいと思っております。そして、中期・長期的には、そうした新たな観光客層に氷ノ山のファンになっていただけるような四季を通じて氷ノ山の自然を活用した事業を展開して、アウトドアスポーツを中心としたオールシーズン型の自然を体感できる取り組みを継続して、入込客の増加につなげていきたいと考えております。そのためには、若桜町単独では氷ノ山の発展はないと考えておりました、兵庫県との連携を強めつつ、世界に打って出る若桜氷ノ山発のツーリズムを目指してまいりたいと思っております。また、つく米バイパスの残土を活用して氷太くん広場の整備も大きな課題でございまして、相当の経費を必要とします。現段階ではまだ詰めたような計画

は非常に難しいことも考えられます。議員ご提案の3期の計画につきましては当面氷ノ山グリーンエコリゾート推進協議会の計画に沿った事業展開を進めていく中で、状況の変化等を時代に即行した活性化策を講じてまいりたいとそのように思っておるところでもございます。

(川上議長)

前任孝行議員。

(前任議員)

はい。その氷ノ山エコリゾート整備計画事業の中でも計画っていうのは出ているんですかね、その辺僕もまだ研究しておりませんので、その計画に沿ってやっていただきながら、でもそれを活かしてやっぱり産業観光課だけではなく、それ以外の課でも何か連携することができるのかなというふうに思っておりますので、そういったことも広げていただけたらなっていうふうに思いました。それで、本当に先程もありましたけど、地元との連携っていうようなことをずっとこれまでも言ってくさっていましたが、やはり何かそういった、そうですね、何かそういった計画みたいなもの、簡単でもいいんですけど、あれば、やっぱり何か住民としても分かりやすいですし、そういったエコリゾート整備事業の計画があるんなら、それを自分でせいって言われたらできんこともないんかもしれませんが、そういったのとまた町の考えっていうのも交えたやっぱり計画っていうのが必要じゃないかなっていうふうに思っているところです。それで、そういうものが本当にあれば話もしやすいんじゃないかなと。何かやっぱり具体的なそういった計画みたいなものがあると話も協議も進むんではないかなというふうに思っております。

それで、本当そういうのを作るのであれば、本当早めに作ってほしいなというふうに思っているところです。それで、結構県の方はハード面というか、な面で支援をしてくださるようなことになっておりますけど、やっぱりソフト面も大事なんじゃないかというふうに思っております。それで、茗荷谷のトンネルの開通式のために平井知事も来られて、なかなかもう知事と話す機会もないっていうことで私もちょっと勇気を振り絞ってちょっと知事と話をしたんですけど、やっぱり地元としてはそう

いった受入体制というかで登山ガイドの養成とかっていうようなことも必要だと思っておりますし、ちょっとそういうことに頑張りたいなっていうふうに思っているということも話させてもらったら、うん、うんというふうに納得しておられて、それで、そのことからか、弁天さんの事業のときにそういった登山ガイドのどう言うんですかね、ガイド者の研修っていう補助も付けていただいていたっていうこともありまして、そういったことも必要かなっていうふうに思いました。また、ちょっと私も一昨年ぐらいからメンバーに入ったんですけど、遭難救助隊の支援をしてもらっているんですけど、そういった研修とかも必要なのかなというふうに思ったりしているところです。それで、次の質問に入りたいと思いますが、そういった通年グリーンシーズンの。

(川上議長) 先に町長の答弁はいいかな。

(前住議員) はい。

(小林町長) いいかな。

(前住議員) はい。思いを言っていたらお願いします。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。一般質問でございますから一方的に言っただけでは通用しない、議論にならないという具合に思っております。最後にやっぱりちょっと町長の本当の気持ちもどうですかっていうのは、これが一番町議の大事なことかなという具合に思っております。いろいろ聞かせていただきました。実際にはまだ3年ぐらいの計画しか持っていないわけでもございまして、これから皆さんとも相談しながら、長期のことも考えていきたいという具合にも思っております。何と言いましても、実は、氷ノ山の大きな事業でございますから、人手が足りないというようことから私も県の方に4月1日から観光の方に1つ若桜の役場の方にも出向していただくという準備も進めてきておるわけでもございまして、一番先程から地元の話が出ていましたけども、本当に氷太くんができてから、地元と上手にいかないというのは、私は現実だと思っておるんですよね、やっぱり。そういう中でやっぱりこれからは地元が本気になってやっぱり地元の自治会も、自治

会もそっぽ本当に今はっきり言って横向いておられるのが現実でございまして、私はやっぱり氷ノ山の場合は、山根議員も言われましたし、前任議員も言われましたし、自治会とかみんなが一緒にならないと大変だという具合に思っております、そういう面でみんなが本当にこの辺で一緒になってこれからやっていくことが一番大事なかなという具合に思っておりますので、皆さんとも一生懸命にこれからまた頑張らせていただきたいと思いますのでよろしく申し上げます。

(川上議長)

前任孝行議員。

(前任議員)

はい。まだ2年生でもやっぱり僕の勉強が足りません、すみません、ありがとうございます。本当に、はい、私自身も頑張りたいというふうに思っております。それで2つ目の質問に移りたいと思っておりますが、やっぱりグリーンシーズンもですし、やっぱりホワイトシーズン雪のシーズンですが、更なる整備が必要なんだと思います。お金が掛かるということですが、なかなかやっぱり地元、関わっておりますと、やっぱりいろいろなお客さんからの意見等々ありまして、また事業されておられる事業主のかたとかの意見もありまして、私もなかなか答えにくいところなんです、それで陳情の方にもありました、長年の懸案であります広い駐車場からスノーピアの入口までの凍結問題です。これまでも本当にいろいろ対策を打っていただきまして、本当にそこには本当に感謝はしているんですけど、なかなかそれが改善、どうしてもやっぱり凍ってしまったときに、スキーを持って慣れないスキー靴で坂を下っていくということで、やっぱり滑って転ばれるかたが本当に減りません。それで、本当にお金が掛かると言うんですけど、やっぱり大きな費用が掛かるとは思います、つく米集落上部のような真ん中から散水していただくのが、本当にベストなんじゃないかなというふうに思いますが、そのことについての所見を伺います。

(川上議長)

答弁を求めます。小林町長。

(小林町長)

はい。先程の質問でございしますが、私たちもちょっとここについては悩んでおるところでもございます。

スキー場の第1駐車場からスノーピアゲレンデ入口までの町道はお客様の安全を確保するためにもスキーシーズン中は凍結防止に配慮をしているところでもございまして、凍結防止対策につきましても、従来からつくよね山荘横の眷米川の豊富な水を利用しまして何箇所かにパイプを使っての調節を行っておりまして、昨年からパイプの数を追加しておりますし、一定の成果はあったのではないかなとも思っております。しかしながら氷ノ山の寒さは特別でございまして、議員から提案いただいた散水施設につきましても水量の管理やスキー客が歩かれる路側の凍結防止をどのようにするかといった問題もあろうかと思っております。町といたしましては、豊富な水を活用しての凍結防止を図りたいと思っておりますので、現状の問題点についてスキー場関係者の皆さんとも協議させていただく中で、現在の施設の改良や維持管理についても検討してまいりたいと思っております。私が一番心配するのは、仮にセンターに融雪装置をしても、ガマで幅員が広いですから本当にできるかなということもあります。本当に両側端にも融雪をせないけんのかなというようなことも今考えてもおりますし、なかなかの問題もあると思っておりますし、それから今豊富な水がありますから、もう1回路面修正をして上手に水を流すということもこれは安上がりの問題でもあると思っております。そういう面でもこれから技術的な専門家にもちょっと相談をしてみたいなという具合に思っております。できればやっぱり経費が少なくて効果があるということを考えていかないとといけんという具合に思っておるところでございまして、そういう面でちょっと専門家にもちょっとお話をしたりして研究してみたいという具合に思っております。

(川上議長)

前住孝行議員。

(前住議員)

はい。やっぱりなかなかお金が掛かるところなんですけど、そのことでちょっとあれです。他の町の大山町ですけど、かたから、ちょっとこんなのはどうだっていうふうに言われていて、やっぱり路面の、路面というか、路面の整備はするんですけど、何か溝がたくさんあるから、溝もあるし、そこから何か真横に線を入れて、それ

で水が上手に溢れるように何本も線を引いてやったらどうかっていうような案もあったりして、なるほどっていうふうに勉強させてもらったところです。そういったことを専門的な私見でなるべく安上がりには、だけど滑る人がいないようなことになったらいいなっていうふうに思っております。やっぱりあそこの区間はバスも通るんですけど、やっぱりバスの運転手さんも何かなかなかあそこは怖いということもあったりするようですので、その辺もお願いできたらなというふうに思います。それで、そことちょっと関連するかどうか分からんですけど、あそこを通らんようにすれば、そういったこともなくなるのかなというふうに思いました。それで、町長が、町長というか、この予算にもユースホステルの解体があります。その跡地で業者組合等の拠点の場にとということ町長は言っておられまして、本当にそれは大事なことだなというふうに私自身も思っているんですけど、それも踏まえてですけど、イヌワシリフトを延ばせないかなというふうに考えています。

そうすれば大きい駐車場からこっちに来る人もあるかもしれませんが、イヌワシリフトの方に行くと、それでバーンそのままスキー場の方に上がると、それでアルパインゲレンデにも行けるし、スノーピアゲレンデにも行けるみたいなことができないかなと個人的にはずっと思っております。で、だけど滑ってくる場所がないなというふうに思っておったんですけど、今あるリフトをそのまま残して、イヌワシゲレンデを滑る人はそこを滑って、それで、あそこ2本ありますので、もう1本を下まで下ろして登行リフト的な感じにしたらどうかなというふうに思ったりもしますが、それもまたお金が掛かる話ですが、そういったこともあるのかなと思っております。ですので、そのことについて、じゃあ所見を伺います。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。とってもいい提案でございまして、私が否定するわけにはいかないという具合に思っておりますけども、現状としては本当に今索道会計も非常に大変でございま

して、実はもう基金が1億9,000万円ぐらいしか残っていないと、食い潰してきたと、それは何だろくに索道の補修に経費が掛かってきたという状況がございますし、それからもう1つ大事なことは、あそこのイヌワシが非常に老朽化してきておるということでございまして、ただより高いものはないって前からよく言いますが、ただでもらったんですけれども、非常に老朽化してきておりましてですね、私はこのことを今一番心配しているんです。しかしながら、やっぱりつく米まで道路がきちんとできるまではやっぱり皆さんはあのときに、議会でも結構こんなのもらわんがええじゃないかという話も結構あったんでございますけれども、私はやっぱりつく米まできちんと道路ができないといけんということを思っておりました。あのメインはちゃんともらってやっていかないといけんということを思っておるところでございまして、そういう面でやっぱりこれからどうしていくかということ、また、皆さんとも議論をしていかないといけんという具合に思っております。

本当に観光というのは、お金もどんどんかかりますし、僕たちもよく金かけておってということをおっしゃるけれども、私たちが身の丈にあったことも、これもまた肝心、大事なことだという具合に思っているところでもございまして、人が来るのが全部決まっていれば投資もするんですけども、なかなかこうして日交さん何か撤退されたというようなことは、本当に厳しい状況があるわけでもございまして、そういう面でこれからも皆さんとも相談しながらこれから進めていきたいという具合に思っておりまして、夢はどんどん大きな方がいいと思っておりますけれども、あまり現実離れしたらなかなか大変でございますので、そういう面で本当に若桜でどれだけのことができるかなということも、これから皆さんと考えていく大きな問題ではないだろうかという具合に思っているところでもございます。何と言いましても、若桜に大きなものを抱えてきておりまして、若桜鉄道あるいは観光事業団の氷太くん宿泊とかによる問題、こういうものが大きな問題を抱えてきておりまして、そういう問題も大事にしながら

仕事をしていかないといけんわけでございますので、また皆さんと、そういう問題をしっかり議論してみたいという具合に思っているところでございます。もう本当に若いかたでございますから、いい夢のある意見という具合に私も思っているところでございますので、だから否定はしておりません。はい。

(川上議長)

前住孝行議員。

(前住議員)

はい。本当にお金のかかることばかりなんですけど、本当に先輩議員のかたからやっぱり財政のことは勉強せないけんてということで、本当に勉強しないといけないなということなんですけど、江府町のスキー場は、あれはあの事故があってからかなり手を入れられました。それで、その財源というのか、辺地対策事業債の方を使われているようでして、過疎債よりは交付税、何だいな、あれが少ないんですけど、そういったのもあるでということをお教えくださるかたもあつたりしたので、過疎債も併用できるかもしれません。その辺もちょっとまだ勉強していませんが、そういった起債もあるよっていうことを教えてくれる議員もありましたので、またそういったところもちょっと私自身も研究をしますが、何か考えていただけたらというふうに思います。

それではこれで質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。